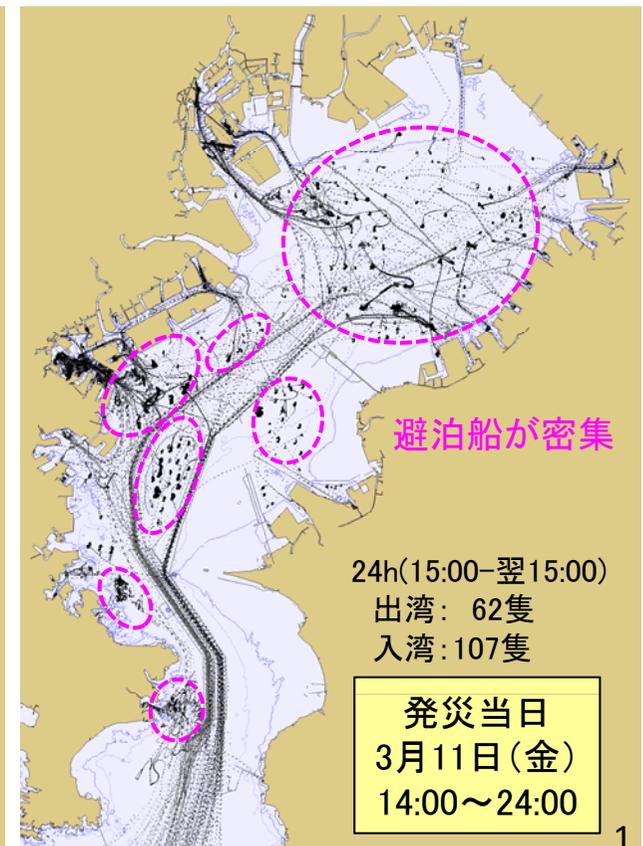
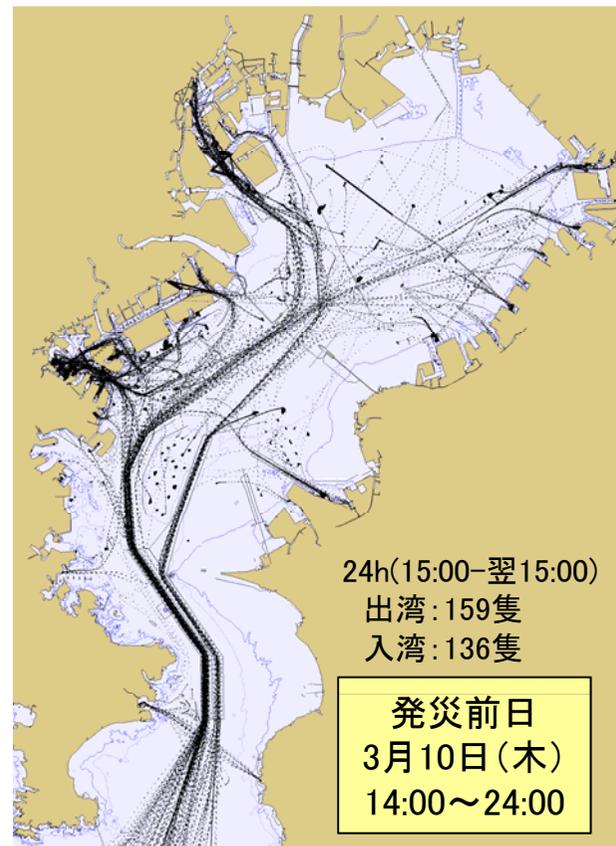
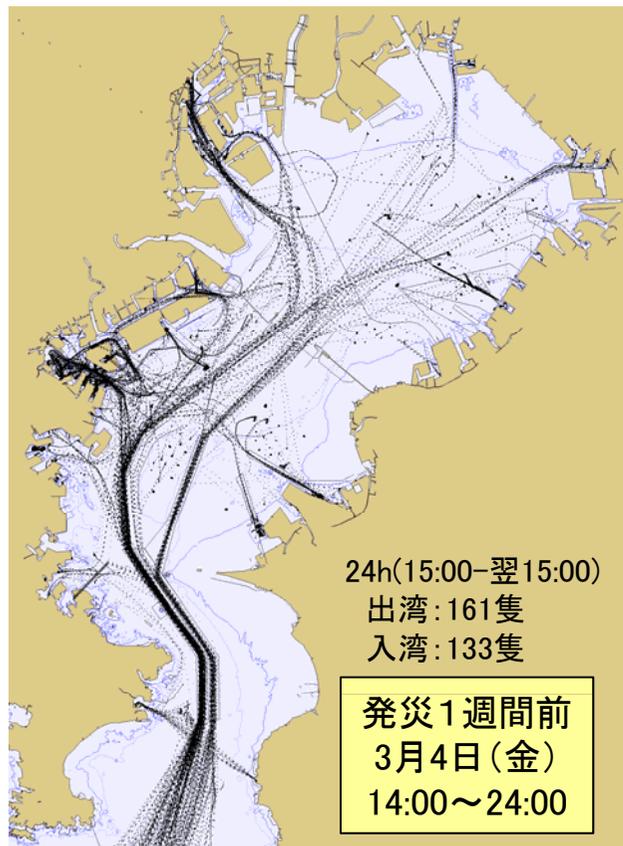


資料6 東日本大震災時における船舶の避難行動について

東京湾における船舶の発災時緊急避難状況

<発災当日の船舶の動静分析概要>

- 14:46 地震発生 → 14:49 気象庁より「大津波警報」
- 15:30~35 各港長より退避勧告の発令(回線混乱により、情報伝達に遅れ→船長判断で退避行動)
- 急いで出湾している傾向は見られず、湾内又は港内に避泊。
発災後24時間の**出湾隻数は6割減**、**入湾隻数は2割減** (前日・前週日比) → **湾内に船舶が滞留**
- 震災当日は、前日・前週日と比較して、**避泊船舶が増加**しており、震災翌日まで継続。
- 海事関係者によれば、出港まで時間を要する大型船は、避泊場所を探すのが困難であった。



鹿島港における船舶の漂流・衝突・座礁の事例

＜津波来襲時の船舶の動静分析概要＞

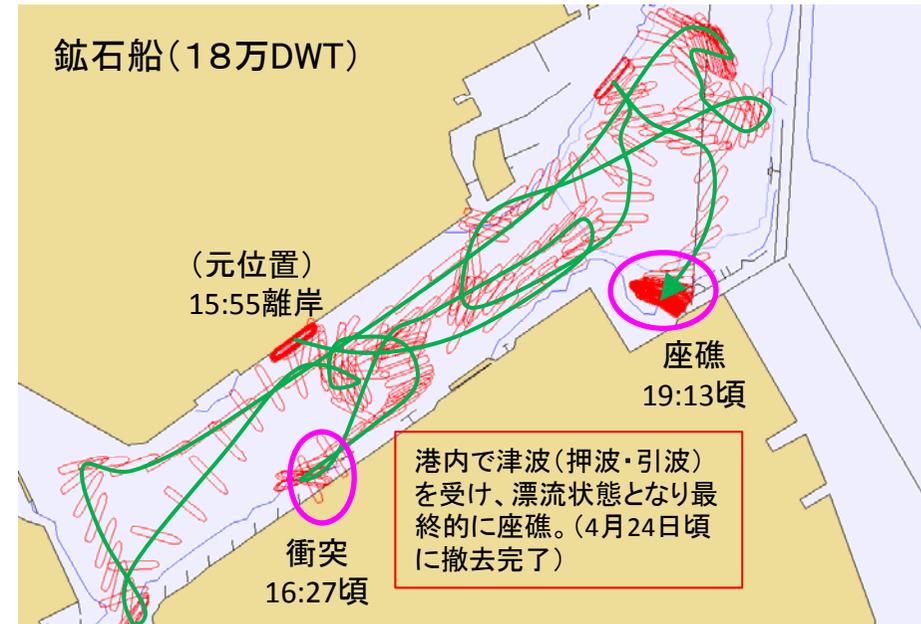
- 14:46 地震発生
- 14:49 気象庁より「大津波警報」
- 15:15 港長より避難勧告発令
- 鹿島港において、AIS(船舶自動識別装置)により、船舶の動きを再現。(験潮器は津波で流出。)
- AISを搭載する在港船舶は、原油タンカー(26万DWT)、鉱石船(18万DWT)等、計38隻確認。
- 地震発生を受けて、緊急離岸するも、津波を受けた在港船は、港内において漂流・衝突・座礁するなど、非常に危険な状況であった。



船が漂流し、5号パースのローディングアームに衝突



鉱石船



(参考) 鹿島港で被災した主な大型船



26万DWT 原油タンカー
船長333m 船幅60m 喫水20.9m



18万DWT バルク船(鉍石船)
船長289m 船幅45m 喫水16.5m